

# 地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

## 世界の目標 私たちの目標

理事長 丸谷士都子

### ★グローバリゼーションをプラスの力に

2000年の国連サミットで採択された国連ミレニアム宣言に次のようなくだりがあります。「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバリゼーションが世界のすべての人々にとり、前向きな力となることを確保することである」。グローバル経済が多くの人々に貧困や環境破壊など負の影響を与えてきたのなら、グローバルな努力を結集して世界をよりよい場所にしよう、という意味が込められています。

この国連ミレニアム宣言と同時に、具体的な数値目標と達成期限を設定したのが、「ミレニアム開発目標 (MDGs)」です。1990年を基準に、2015年に達成すべき目標が示されています。2015年までに、1日1ドル未満で生活する人口比率を半減させる、全ての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする、5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる、などが具体的に提示されています。

ミレニアム開発目標が画期的であるのは、「人間を中心に据え、具体的な目標と期限を設定していること、途上国の自助努力の責任と先進国の支援の責任の両方が謳われていること、先進国・途上国の政府、市民社会、開発機関の承認を受けていて、達成が可能である」とアナン前事務総長は述べています。しかし、もしこのチャンスを逃し、目標を達成することができなかつたら、私たちの住む世界はより危険で不安定なものになると強い危機感も訴えています。



ネパールスタディツアーに同行した筆者

## CONTENTS

- 世界の目標・私たちの目標……………1
- ネパールYOUTH交流スタディツアー'07……………2
- 新プロジェクト現地調査報告……………4
- 太陽、水の恵みとともに……………5
- ネグロスに育ち始めた地域循環……………6
- フィリピン・ネグロス島調査ツアー報告会&ピアノコンサート……………7
- ヨッコのグローバルアイ……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8



ネパールの若手リーダーたちと

遠いよその国の問題と考えがちですが、多くの資源を外国に頼っている私たちは、このような世界の動きをしっかりと捉え、世界の人々と連帯して真剣に考え、行動していかなくてはならないと思います。日本政府がおこなう支援の内容にも目を向けて行く必要があります。

### ★ともに創ろう希望ある未来を!

今年からネパールとカンボジアで新しい取り組みが始まります。ネパールでは、以前から交流のあった参加型開発の専門家カマル・フヤルさんとともに、教育と生活向上の支援をおこないます。対象となるのは少数民族の住むマンガルトール村の高校とその地域の人々。まずは教育の質の向上と、学業を続けることが難しい生徒たちへの奨学金から始めます。

カマルさんは次のように言いました。「『プロジェクト』ということばは、村の人にとっては、外から人がやってきて何かを作り、去って行く、というよくないイメージがあるので『ムーブメント (運動)』ということばを使いましょう」。名称は「幸せ分かち合いムーブメント」となりました。

カンボジアの織物の町タケオでは、少女たちが学ぶ職業訓練センターを通して、織物のアドバイスや商品開発・マーケティングのお手伝いをしていきます。子だくさんの家庭では、貧困のため、少女たちが売られてしまう状況があります。技術を習得して希望ある未来が展望できるようになることをめざします。

アジアに暮らす仲間として、持続可能な地球を作るため、私たち自身が日本でどのような運動を作っていくのか、ともに考えていきましょう。会員のみなさん、今年はぜひともさまざまな形で活動に加わり、おおいにご意見やアイディアをお寄せください。

# ネパールYOUTH交流スタディツアー'07

2/11~2/18

地球の木は1997年からネパールNGO、SOARSとともに、人々の自立をめざして識字教育・職業訓練などの支援を行い、交流の中から互いに大きな影響を与えてきました。今回のスタディツアーには、学習意欲旺盛な6名が参加し、年齢も性別も異なるネパールの様々な人々と交流しました。

## この経験を大学生生活に活かします!

岩瀬真実 (大学2年生)

ネパールを訪れる前に開かれた事前学習会で、ネパールは今、激動の時代を乗り越え、新しい国づくりの最中にあるということを聞きましたが、短期間ながら実際ネパールに滞在してそのような状況を少なからず感じることができました。

私はスタディツアー参加にあたって3つの目標を立てました。一つは、発展途上国でのNGO活動を学ぶことによって、大学で学んでいる公共政策をより広い視野で考えるきっかけを得ることでした。今回のツアーの現地コーディネーターであるSOARSというネパールNGOは多岐にわたる活動を行っていますが、その一部に参加する機会を得ました。SOARSがカトマンズ近郊に建てた人材育成センターで私たちは、現地の女性グループ、ユースクラブ、父親クラブ、学校の先生たちとの交流を行いました。この活動では地域の人々が語りあえる「場」を確保しています。個人、地域が持っている問題を共有し、解決策を話し合う「場」は、地域での住民自治の育成を助けると思えました。NGO活動に参加し、その重要な役割を見るという素晴らしい経験をさせていただきました。

## 日本の常識はネパールの非常識?

林 雅子 (大学2年生)

初めてネパールを訪れてみて、日本とのライフスタイルの大きな違いに、ただただ驚くばかりでした。まず、食事の回数と量です。ネパールでは朝と夜の2食ですが、一度の食事で食べる量は日本よりも多いのです。主食は日本



みんなで散歩。ネパールでは、ゆったりと時間が流れる



日本の紹介に興味津々の中学生たち

と同じ米なので、毎回とてもおいしくいただくことができました。私の一番のお気に入り、モモという餃子に似た食べ物です。あの味は忘れることができません。

次に、フロの習慣です。日本では毎日風呂に入り、熱シャワーを浴び、髪や身体を洗いますが、ネパールでは毎日ではできません。センターには太陽熱温水器がありますが、使用できる水の量にも制限があります。この経験からいかに日本は水が豊かであるか、いかに水を無駄づかいしているかということに気づかされました。

私が今回の旅で一番驚き、衝撃を受けたのは、トイレの際にネパールでは紙を使用せず、水をかけて左手で洗うことです。これには本当に戸惑い、慣れようと努力したものの結局最後まで実行することはできず、残念でした。日本では紙を使うことが当たり前で、手を使うことが不衛生に思えたのですが、逆にネパールの人々は紙で拭くよりも手で洗う方が清潔で肌にもやさしいと考えていることがわかりました。この経験を通して価値観の違いを発見しました。

## 違う国のことを知ることは、自分の国のことを知ること

佐久間進之介 (27歳)

私は国際協力に興味を持ち、被支援国を自分の目で見てみたいという思いがあったので、このツアーに参加しました。とくに印象深かったことの一つに「言葉」があります。予想していたより英語を話せる人がいたことに驚きました。学校では低学年から英語を学び、ふつうに会話をできる子が結構いました。私たちと話す時は英語なのですが、私は英語ができません。ですから、話す人の顔をよく見たり、知っている単語などを注意深く聞いたりして何とか理解しようとしていました。ふだん使わない神経を使ったようで、頭や目が疲れました。このことから、改めて英語を学ぶ必要性を思い知りました。

もう一つは、交流した人々の問題意識の高さです。共通していたのはみんな真剣に取り組んでいるということでした。正直、ここまで真剣とは考えていませんでした。日本でも、一人ひとりがもっと問題意識を持つ必要があるのでは、と感じました。

今回のツアーを振り返ると、参加する前に持っていたネ

パールに対する認識、日本に対する認識が確実に変わったと思います。違う国のことを知ることは、自分の国のことを知ることにつながるということと、国の文化を人に伝えることの難しさや大切さを実感しました。今まで自分が世界に抱いていたイメージも少し変わりました。自分や自分の周りの世界さえも変えていけるような瞬間や機会は、いつもすぐそばにあると思います。これからも、もっといろいろなことを知り、自分の体験を他の誰かに伝え、いろいろな活動に参加していきたいと思っています。ツアーに参加して本当によかったです。



学ぶ意欲に燃えるスタディツアーのメンバーたち

## 学ぶことの大切さを学んだ

筒井早紀 (大学2年生)

ネパールの人々の考え方を知りたい!これは今回のスタディツアーにおける私の目標の一つでした。今回は私にとって2回目、ぴったり1年ぶりのネパール訪問でした。打ち解けた雰囲気、英語そして必死にネパール語で、政治・恋愛・教育・文化...いろいろな話が深くできたように感じます。

初めてのネパールでは、言語と笑顔の大切さを学びました。今回はツアーを乗り切るものにするために、ネパールの人々の生の声を聞いてみようと思い、大学での研究テーマでもある「平和」や「開発」についてどう思うか、などの問いを投げかけてみました。彼女たちはそのつど、一生懸命に答えてくれました。王政が倒れて民主化され、変革の真っ只中を生きるネパリーガールズとの語らひは、とても貴重な体験でした。

女性グループとのミーティングの時、「平和って何だと思いませんか?」と問いかけてみました。彼女たちは「心の中が平和じゃないと意味がない」と答えました。暴力や恐怖のない、平等と正義のあることが平和には必要だと言っていました。

ホストシスターであり、一番の親友のリタにも同じ質問をしてみました。リタは真剣に答えてくれました。「平和」(サンティ)とは幸せ、安全、自由、天国への道。全世界の私たちすべてが必要とし望んでいるもので、私たちは互いに争ってはならないと。

そして、今回も見つけた自分への課題は、昨年同様「学ぶこと」。シュレスタさんが言っていた「学びは決して終わらない。学びは人を人にする」ということを心に刻みました。



マオイストの集いに動員される学生たち

## 日本は本当に先進国?

乳井茉莉恵 (大学4年生)

「ネパールに2回なんて、よく行くね」と友人に言われましたが、回数を重ねることでネパールのより深い部分、そして自分のより深い部分も見ることができました。10年もネパールプロジェクトに関わっている母からネパールや他の国々の話を聞かされて私は育ちました。ネパールや識字教室、先進国と開発途上国のことなど周りの人よりも知っていて分かっていると思っていました。そして、私たち日本人とネパール人は対等なのだから、「援助」ではなく「交流」が大事なのだということも分かっているつもりでした。

しかし、日本が進んでいてネパールが遅れている、という優劣をつける考えを実はどこかで自分が持っていることに今回気づき、ショックを受けました。教育について小中学校の先生と話した時、いじめや体罰といった日本が抱えているのと同じ問題がネパールにもあることを知り、自然と驚いている自分がいました。ただ同じだということに驚いたわけではありません。「日本より遅れているはずのネパールが私たちと同じ問題をもっていること」に驚いていたのです。

もちろん、日本の方が優れていることもあります。しかし、多分それと同じくらい、若しくはそれ以上にネパールの方が優れていることもあると思います。たとえば、人への気配りや優しさ、笑顔、若者の責任感の強さ、地域のつながりなどです。こういった分野では日本は発展途上国であると言っているかもしれません。

今回の学びや気づきによりいくつかの分野で「無知の無知」から「無知の知」になった今、できることやすべきことが少しは見えるようになったので、それらを一つひとつ学び成長し続けようと思います。



未来を紡ぐワークショップ

機を織り、夢を織る

2月末から約1カ月間、カンボジアで調査を行った。プノンペンから車で南に約1時間半のタクオ県に、現地NGO、VCAOが運営するセンターが2つある。DV被害者の女の子たちに、共同生活をしながら自立できるよう縫（かすり）の織物を教える織物センターと、貧困のため売られる危険性のある子に、スカーフの織物やハンディクラフトを教える職業訓練センターだ。（日本のNGO、Love & Peaceが両センターの運営を支援している。）



職業訓練センターに宿泊しながらスカーフを習う

「あ！夕日だ。きれいに見える場所があるんだよ！」と、織物センターのソーシャルワーカー、ベラックさんはずんずん歩き出した。センターに到着した日のことである。あわてて後を追った。まばらな木々の向こうに、夕日は驚くほどのスピードで落ちていく。道といっても、干上がってひび割れた地面をあらわにした小さな川沿いの、土手であった。

カンボジアは4月までが乾季だ。雨はまったくといていいほど降らないから、生計手段である農業ができない。水がある地域では早くから田植えや2期作ができる。いきおい、タクオは他地域と比べても貧しくなる。電柱や電線などさえぎるものがない美しい田園風景は、同時に貧しい風景でもあった。

Love & Peace代表の藤沢房俊さんとセンターの職員とともに、技術を習得し自宅に戻った子たちの追跡調査に出かけた。バイクに乗ってさらに田んぼの奥へと進む。もっとも貧しい地域である。生活用水である雨水をためる水がめは、各戸1個ぐらいしかない。ベラックさんの家は5人家族で、飲料水用の水がめが5個。乾季の半年を乗り切るのに、ぎりぎりだそうだ。

高床式の家は、壁と屋根が大きな葉で葺いてある。下の土間の、牛が寝そべる隣で女の子は機を織る。足元を鶏が走り回る。多くの兄弟と両親を抱え、機織で得た現金で弟妹たちを学校に行かせている子、屋根をトタンに替えた子など、生活環境は改善している。



高床式の家の下で機を織る

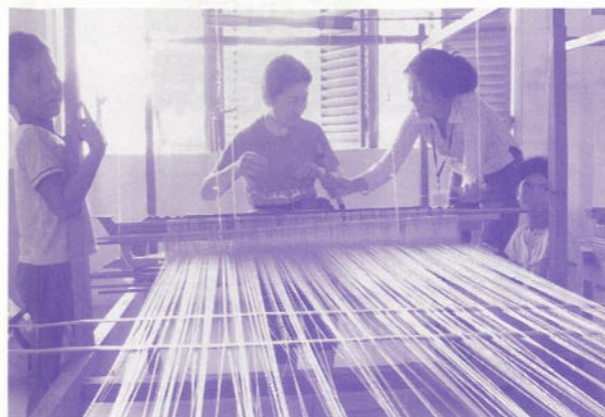
それでも、機の隣のハンモックで赤ん坊がすやすや眠っているのを見たときには、「はあ〜」と思わずため息が出た。藤沢さんが、「生活改善や農村問題に取り組んだらとも言われますが、とにかく目の前のこの子を助けなければ、と思うんですよ」と言う。家族計画も必要だ。根本問題を解決するにはほど遠いような気がしても、とにかく生活が改善されたのを見ると元気が出ると重ねて言う。織物センターの子たちは全員が小学校中退だ。カンボジアは高校まで義務教育で無償だが、学用品、制服、昼食代、それに通学のための自転車が買えず学校に行かない子が多い。

もうひとつの職業訓練センターでは、スカーフの機織を教えている。この3月からハンディクラフトのクラスが開設された。昨年は洋裁クラスだったが、洋裁の賃金はあまりにも安く家計を助けることはできない。バッグなどハンディクラフト製品なら外国人が買うので、手間賃も高いのだそうだ。

両センターの製品の収益は、半分が子どもにいき、半分がセンターに入る。センターが自立することは、周囲にいる女の子たちが織物を習って自活できることになる。職業訓練センターの人々と一緒にデザインなどを開発し、売れるものを作ることが地球の木の新プロジェクトだ。子どもたちにとっても、遠い日本の人たちが関わってくれることは、励みになる。さいわい、トレーナーの技術力は高い。彼女が教える子たちの技術も伸びるだろう。スカーフのデザインは、織物の専門家斎藤真理さんが助言する。カンボジアのショップや地球の木で、センターの子が織った布を使ってセンターの子が縫ったバッグを売る。今からわくわくしている。



織物センターでは、朝7時半ごろから糸をくくり、緋を織る



カンボジアの機に挑戦する斎藤真理さん

村滞在記

センターでの食事は、朝が白いご飯おかゆと、野菜を炒めたり卵。夕食が白いご飯と野菜たっぷり少々の骨のスープが基本で、スープをご飯にかけて食べる。朝夕、食事当番の子が買い物に行く。卵は10個ぐらい。野菜は4束程度。これが職員も含めた28人分の買出しの量である。私はここでしっかり3食ご飯を食べ、でこぼこ道を自転車で30分かけてセンター間を往復していたら、見事に2kgやせた。高かったコレステロール値も正常に戻った。

食事はおいしかったが、水はつらかった。洗濯や水浴びには、茶色くにごったため池の水を使う。この水をかぶるのは、毎日、勇気が必要だった。ボウフラが泳いでいる。ため池には鶏も水を飲みに来るし、蛙も泳いでいるのだから。センターの人たちは、かめの水を沸かして飲んでた。雨水とはいえ、茶色である。日本に帰って、まず最初に蛇口から出る透明な水に感動し、ためて使うようにした。

（カンボジア新プロジェクト担当 佐藤葉）



職業訓練センター



生活用水用のため池。茶色くにごり、フカッ、フカッと泡が立つ。

ラオスから

太陽、水の恵みとともに

4月のラオスは一年で最も暑く、そして楽しい時期だと日本を発つ前に聞いていました。今春より日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所の新スタッフとなりラオスの首都ビエンチャンで暮らし始めました。気温は、およそ40度。太陽のパワーを実感します。最初の1カ月間はラオス語習得のため、ラオス人の家庭にホームステイさせてもらっています。2歳のパン君がいる6人家族で、首都ビエンチャンでの都会生活です。

そしてラオスで最も楽しい時、「ピーマイ（お正月）」の休日をこの家族の皆とともに過ごしました。街中の店が閉まり、皆がお寺へ参拝に行き、また、家にお坊さんと呼んで新年の健康と幸福を祈り合い、親戚・近隣を訪問し合うなどして3日間の休日が続きます。そして、旧年中の悪い出来事を洗い流す意味で始まった「水掛け」が至る所で行なわれます。ホースや桶、水鉄砲で水を掛け合い、全身びしょ濡れになって街中が賑やかです。乾季から雨季へと移る猛暑の中で生まれた行事でもあり、皆の気分を華やかにする水の力を感じさせられます。

親戚や近隣を訪問するにも、昼過ぎから女性が集まって、お喋りしながらバナナの花やパクチー（香菜）、ナスやパパイアなどを切って盛りつけ、カオ・プーン（麺料理）約50人分の準備をお手伝い。そのまま夜中まで「水掛け」をしながら料理を食べ、飲み、踊りまわります。大音量の音楽とともに、びしょ濡れになってお年寄りも若者も皆一緒に踊り、連日連夜、家族総出で楽しみました。異なる国の家族との生活は、親族や近所とつながる暮らしの楽しさや大切さを思わせてくれ、日本の暮らしにも共通する場面、逆に失われつつある場などに気づかされます。

太陽と水、自然の恵みをまだまだ直に感じられるラオスの都会生活ですが、より便利な生活環境への変化も著しく、またそれが、自然とともに暮らす地方の村々へ与える影響も多大のようです。私自身は、これまで約5年半、環境系NGOで他国の森林問題に携わり、森とともに生活に必要なものを失った人々にも出会ってきました。そうした経験をもとに、今ラオスにも押し寄せてくる環境変化の中で、人々が暮らしに大切なものを失ってだけではないように、役に立ちたいという思いで森林事業担当を務めていきます。

（JVC ラオス事務所 尾崎 由嘉）



ホストファミリーたちとお正月料理の支度をする筆者



# ネグロスに育ち始めた地域循環

(フィリピン・ネグロス島支援終了報告)

## 始まりは飢餓

町には食糧があふれ、作物を産み出す大地を目の前にしながら、砂糖農園の人々はなぜ死ぬほど腹をすかせていたのか。砂糖の国際価格が暴落、砂糖キビ単一栽培の農園では、農園主が栽培を放棄、農園労働者は収入の道を閉ざされた。この飢餓は突発的な出来事のように見えるが、日ごろの農園労働者の生活を知らず、いつ起きてもおかしくないものであった。ネグロスでは、かつての奴隷が契約労働者になったものの、旧態依然とした大土地所有制が残されていたのだ。しかしこの構造は、経済のグローバル化が進む現在でも旧態依然だといってすますことのできない問題となっている。

1986年に発足した日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)は、その構造を底辺から変えていくための支援を始めた。生活クラブ組合員が多数を占める地球の木では、購入品のバランゴン・バナナからネグロスに関心をもつ人が多く、JCNCに協力し1992年から支援を始めた。

## 支援をふりかえる

### 1986~1990

食糧、医薬品の緊急支援。マスコバド糖民衆交易開始。循環型農業の実験・研修の場としてツプラン農場開設。国内難民の再定住支援。バランゴン・バナナ民衆交易開始。

### 1991~1995

台風や病害でバナナ村の被害深刻化、農業の複合化をはかる。放置された農園を共同耕作する「ファームロット計画」開始。PAP21結成、「民衆農業創造計画」パイロットプラン開始。

### 1996~2000

各種プログラム(奨学金、就学前児童のラーニング、保健医療)開始。ツプラン農場で若者への有機農業研修。女性の意識改革運動。砂糖農園労働者の砂糖キビ共同耕作、作物多様化推進。

### 2001~2005

エスペランサ農園で土地闘争深刻化、農地改革闘争の強化。砂糖キビ共同耕作から家族農業へ転換、家族農業・女性プログラム・マーケティングが三重点項目となる。

### 2006

モデル農家が11農園31家族となる。「ネグロス有機農民連合」結成。ファーマーズマーケット開催。

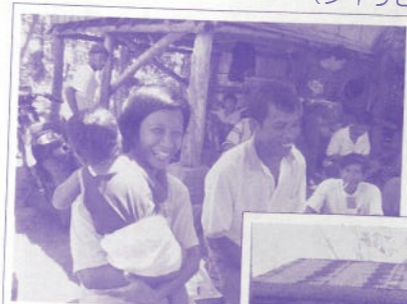
## 子どもたちに希望がもてる社会を

ネグロス支援は初期の零細農・漁民、スラム住民を含むものから、次第に対象を砂糖農園労働者へと収束していった。そして砂糖農園労働者への支援は、農地の獲得、砂糖キビの共同耕作、作物の多様化、家族農業へと進められてきた。

地球の木では、2004年から「レッツ・ゴー!ファミリープロジェクト」(モデル農家の経営基盤づくりへの支援)を始めた。昨年12月の現地調査では、モデル農家が野菜栽培や販売などで自主性を増し、家族協力の下、農業経営に自信をつけつつあることが確認できた。農地を獲得しても、いまだに砂糖キビ栽培に頼る人たちが多く、少数とはいえ循環型農業による自立モデルが育ってきた意義は大きい。「ネグロス有機農民連合」も結成され、今後のネグロスの「地産地消」活動をさらに進めていく体制もできあがった。このような状況をふまえ、2006年度をもって地球の木の支援は終了することになった。

地球の木の国内活動では二つのことが重要であった。一つは青少年スタディツアーで、1994年度に始まり、7回実施された。日本とネグロスの若者にとって貴重な体験が得られるものとなった。もう一つは地球市民教育であった。オリジナル教材「マジカルバナナ」を使い、神奈川県内の多くの学校で、フィリピンと日本を考えるワークショップを行うことができた。また、ネグロスの砂糖農園労働者の飢餓を通し「循環型社会」の大切さを考える教材「マジカルシュガー」を七転八起しながら作成している。

15年間にわたるご支援、会員の皆様に深く感謝いたします。7月7日(土)、皆様への感謝もこめて「ありが島ネグロス」を開催いたします。多くの方のご参加、お待ちしております。(フィリピンチーム 米林大作)



モデル農家のカルロスとマリアフェ



モデル農家のピセンテ一家

## フィリピン・ネグロス島 調査ツアー報告会 &ピアノコンサート



「レッツ・ゴー!ファミリープロジェクト」が始まって3年。自立の道を歩みはじめたモデル農家の人たちの生き生きとした姿を伝えたくて、3月21日、相模大野で、さがみ・県央ランチ合同企画の報告会を開催しました。

地球の木の会員以外の人たちにも参加していただこうと、河野康弘さんのピアノコンサートをジョイントさせた結果、36人の参加がありました。河野さんは戦争が環境を破壊している現実、ピアノを作るのに森林を破壊している現実をやさしい語りで訴え、作られたピアノは弾くことによって生き返ると、「ピアノお目覚めコンサート」が始まりました。

ジャズは難しい音楽ではないと、童謡もジャズのリズムで演奏されると違った魅力の音楽になり、さらに実際に参っている人に鍵盤にふれてもらい、河野さんが伴奏をつけることで、立派なジャズのアドリブになるという体験もさせてくれて、楽しい雰囲気盛り上がり上がっていききました。

地球の木での活動が身近に感じられ、おいしいランチとコンサートで豊かな時間を過ごせた、と友人からの感想がたくさん寄せられて、とてもうれしい企画となりました。

(県央ランチ 石川恵美子)



演奏する河野さん

## 活動日誌(3月~5月抜粋)

- |         |                                       |        |   |
|---------|---------------------------------------|--------|---|
| 3月 2日   | NPO労務管理・会計研修会参加                       | 20日    | 第10回ランチ連絡会                                |
| 5日      | マジカルシュガー教材作成ミーティング                    | 21日    | 「アボン 小さい家」トークショー出演(渋谷 UPLINKX)            |
| 9日      | 広報スキルアップセミナー参加                        |        | 地球の木サロン「ハンダに親しむ」                          |
| 13日     | 第10回 理事会                              | 24日    | マジカルシュガー教材作成ミーティング                        |
| 14日     | 地球の木サロン「Tea & Talk」                   | 26日    | 第12回理事会                                   |
| 16日     | 第9回ランチ連絡会                             | 28日    | 地球の木サロン「パッチフラワーレメディ」                      |
| 20日     | ネパールYOUTH交流スタディツアー報告会<br>(平沼記念レストハウス) | 5月 1日  | 地球の木サロン「実践英会話」                            |
| 21日     | フィリピン報告会&ピアノコンサート(相模大野 ラ・シェット)        | 6日     | 横浜インターナショナルスクールフードフェア参加                   |
| 24日     | 地球の木サロン「アロマセラピー」                      | 9日     | JVCラオス担当川合さん、グレンさん報告会(事務所)                |
| 24日・25日 | DEAR教材体験フェスタに講師派遣                     | 10日    | 第13回理事会                                   |
| 26日     | JVCラオス新スタッフ尾崎由嘉さん来所                   | 12日    | 平楽中学校国際学習「ネパールわくわくバッグ」<br>「ラオスを知るワークショップ」 |
| 29日     | マジカルシュガー教材作成ミーティング                    |        | 地球の木サロン「アロマセラピー」「エッセイ修行」                  |
| 30日     | 地球の木カフェ                               |        | 鎌倉市民フェスティバル参加(三浦)                         |
| 4月 5日   | 第11回理事会                               | 14日    | マジカルシュガー教材作成ミーティング                        |
| 7日      | 地球の木サロン「エッセイ修行」<br>NGOかながわ国際協力会議に出席   | 16日    | 地球の木サロン「実践英会話」                            |
| 10日     | マジカルシュガー教材作成ミーティング                    | 19日    | 地球の木サロン「ハンダに親しむ」                          |
| 11日~13日 | 訪韓「地球村分かちあい運動」と打ち合わせ                  | 19・20日 | あーすフェスタ2007                               |
| 14日     | 地球の木サロン「アロマセラピー」                      | 23日    | 相模原 commons 食育講座「マジカルバナナ」(相模)             |
| 16日     | 平楽中学国際学習職員研修「貿易ゲーム」                   | 26日    | 地球の木総会(新横浜オルタナ)                           |
| 18日     | 監査                                    | 27日    | 茅ヶ崎カトリック教会バザー出店(湘南)                       |
|         |                                       | 28日    | JVC新井さん県国報告会(事務所)                         |



インドにいるNGOから「ここ数日でルピーが高騰し、生活に影響が出ている」と聞きました。インドは経済の急成長に伴って、国内総生産がアメリカや日本などと並び、1兆ドルの大台を突破する見通しです。世界の貿易政策を検討するWTO(世界貿易機関)の交渉でも中心的な存在になってきています。いずれ中国、アメリカに次ぐ世界第3位の経済大国になると予測されています。こうした拡大経済を標的として世界の投機がインドに集まり、金融ビジネスが増加しています。物価が上昇する中、都市に住む人々の間でクレジットやローンでの買物が普及し、海外支援を受けた高速道路や地下鉄などの事業計画も進んでいます。まさに消費社会化が浸透中といえるでしょう。

しかし一方で、人口の7割が住む農村部は極度の貧困にあり、借金苦のためここ10年間に10万人の農民が自殺したといわれています。インドは「緑の革命」と呼ばれる化学肥料、農薬、高収量品種の導入により、食料自給率100%を達成、穀物輸出国となったとしています。しかしこれは一握りの巨大企業が儲かる構造で、土地なし日雇い農業労働者は、最低賃金さえもらえずに劣悪な環境の中で暮らしています。彼らは人口の3割、約3億人に当たりますが、これはカーストと深く関連しているようです。今、この人々が村を捨て都市部に流れ込んでいます。

繁栄する都市と空洞化する農村とは対比する構造に見えますが、根源は同じです。経済成長を追及する構造は限界にきていることを私たちは経験しています。インドの科学者であり、世界的リーダーであるヴァンダナ・シヴァさんは「農業を持続可能で公平なものに」と訴えています。地球環境を孫子の代へと持続させるためにも、世界を平準化し経済効率追求を基本とするWTOではなく、シヴァさんの提唱する持続可能な開発に向けて連携して行きたいですね。

## 「NGOかながわ国際協力会議」をご存じですか？

神奈川県内を拠点とするNGOが、県の国際政策について協議をし、知事に提言をおこなう会議です。1998年に「外国籍県民会議」とともに設置されました。

地球の木は第1期から第3期まで委員を務め、第5期となる今回は、丸谷が委員として委嘱されました。今後はこれまでの提言がどれだけ施策化されたかを検証していき、どのようにしたら提言が実現するかを考えていきます。私たちの声をぜひとも県の国際政策に反映していきたいものです。

詳しい会議の内容は以下のウェブサイトで見ることができます。また、2カ月に1度開かれる会議は傍聴することもできます。次回の予定は7月21日(土) 9:30~12:00 あーすプラザ(本郷台) で開催されます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/seisaku/ngo/ngo-index.htm>

## とう ありが島ネグロス

日 時：2007年7月7日(土) 13:30~16:30  
会 場：オルタ館5階「まなびや」(新横浜)

プログラム：

「ネグロス支援過去・現在」-地球の木  
「ネグロス支援とは」-JCNC

ワークショップ「マジカル・シュガー」-地球の木  
終了後交流会を開きます。(費用：1,000円)

申込み：地球の木事務局 7月3日まで

主 催：地球の木



## オープンオフィス「地球の木カフェ」

アジア各地の民族衣装展示。ご希望により試着もできます。夏の冷房に備えて軽いスカーフはいかが？1枚バッグにあるととても便利。

日 時：7月6日(金) 11:00~18:00

場 所：地球の木事務所

地球の木カレー、カンボジア茶、ラオスコーヒー、お菓子もあります。

## 港南台国際協力まつり2007

世界の踊り、食べ物、雑貨、ピアガーデンもあります。地球の木はなんぶランチが、美味しいエスニック料理とネパールチャイ(ホット・アイス)を用意してお待ちしています。夕涼みがてら来てみませんか？お手伝いも募集しています。

日 時：7月21日(土) 22日(日) 15:00~20:00

場 所：港南台屋台村 (JR港南台駅徒歩1分)

主 催：横浜NGO連絡会、横浜港南台商店会

## 2007「南北コリアと日本のともだち展」

日本、韓国、北朝鮮、在日コリアンのこどもたちの絵やメッセージを展示することで、この地域の平和を願う催しです。

今年のテーマは「私の大切な人」。それぞれのこどもたちが、家族やともだち、先生と過ごす楽しい時間や思い出を、絵やビデオで紹介します。

期 間：2007年6月28日~7月4日(2日は休館日)

場 所：東京都児童会館(渋谷) 地下展示スペース

主 催：南北コリアと日本のともだち展実行委員会

## クリックから世界が変わる！ 「イーココロ！」募金にご協力を



手軽に毎日、無料で国際協力に参加できる場が、インターネットの国際協力活動支援サイト、「イーココロ！」です。

手順は簡単。

- ① イーココロ！に会員登録する。このとき地球の木の寄付先に指定する。
- ② イーココロ！のホームページを入り口にして買い物や資料請求、サイトにアクセスなどをすると、一定の募金ポイントがたまる。
- ③ 1000ポイント以上ためると、1ポイントを1円として地球の木に寄付できる。

たとえばお中元の品を選ぶ時、旅行に行く時、まずはイーココロ！にいてみてください。またお買い物をしなくても、毎日「ポイントGETクリック募金」をクリックするだけでポイントがたまります。2つの新プロジェクトが始まった地球の木、充実した支援活動をするために、ぜひご協力ください。

<http://www.ekokoro.jp> または イーココロ！で検索してください。

## ラオスからやってくる人形劇 チェオボン「ぼくらの森には・・・」

日 時：8月1日(水) 夜

場 所：アートフォーラムあざみ野

地球の木にてチケット販売予定  
詳しいことはチラシをご覧ください。



## 地球の木サロン

4月より新講座が開講。随時参加者を募集しています。お試しも受け付けていますので、気軽にご連絡ください。

### 自力整体

場 所：男女共同参画センター(旧戸塚女性フォーラム)

日 時：毎月3回(金曜日) 10:00~11:30

持ち物：バスタオル、フェイスタオル

運動のできる服装で参加してください。

### 実践英会話

場 所：地球の木事務所

日 時：第1、第3火曜日 19:00~21:00

パッチフラワーレメディ(心をいやす花のエキスによる療法)

場 所：地球の木事務所

日 時：第4土曜日 14:00~16:00

★ボランティア募集！  
発送作業、イベント手伝いなど

**re100**  
この印刷物は古紙配合率100%  
再生紙を使用しています

PRINTED WITH  
**SOY INK**  
環境に配慮した「大豆インク」を  
使用しています